

○高橋和雄、金子裕美

(和洋女大文家政)

序論 布をCRT画面に表示するための方法として、①単なる画像としてビデオキャプチャボードに取り込む、②織りでは、完全組織の規則にしたがい糸を配列・配色する、③よこ編では、編目記号を配列するなどが知られている。しかしながら、①では組織の規則が分からない、②では、番手と糸間隙の設定ができない、緯糸がジェットルーム方式でしか走行しないため耳部に環ができない、超低速モードがないため緯糸が経糸をくぐり抜ける様子が見られない、表と中表の指定ができない、経糸の番号付けが実際と合っていない、③はループが見られず、単なる目数計算にしか使えない。著者も②の方法を8bit機の頃から試みてきたが、Windowsのソフトに切り替え、上記欠点の改良を試みてきた^{1) 2)}。

方法 ②では以上の欠点改良と織機の種類を加えた。③では、ペイントブラシにより作成した表目・裏目・耳部のビットマップファイルを単に配列するだけであるが、重なる糸同士の色を若干変え、あるいは同色系では境界に別の色で仕切り線を入れた。プログラムは、Windows版VisualBasicにより作成し、Formオブジェクト上に組織をフルカラーで展開し、プリンタかビットマップファイルに出力する。

結果 図の上は斜紋織を、中と下はよこ編を示す(左下は左耳付)。さらに、bmp形式で保存されるためペイントブラシなどにより後加工し、Tシャツやワンピースのフレームへの貼り付けが可能となった。

